

NPO法人 CAP 広島だより



発行：特定非営利活動法人 CAP 広島
〒730-0043 廿日市市駅前1番3号
TEL・FAX 0829-20-5114
e-mail cap-hiroshima@viola.ocn.ne.jp
HP <https://www.caphiroshima.org/>

2020年度 総会のご案内
日時：2020年 6月13日(土)
13:30~16:00(予定)
場所：広島市西区地域福祉センター(予定)

2020年「原点回帰」

副理事長 岡本 晴美

私たち「NPO法人CAP広島」は、1995年12月に立ち上げた「CAP広島準備会」を経て、翌年「CAP広島連絡会」として会を発足し、1997年6月に広島市内公立小学校にて初めて子どもワークショップを実施したのを皮切りに、多くのワークショップ提供を行ってきました。

その後、社会的な要請もあり、数年間の協議の結果、2007年4月にNPO法人格を取得しました。その目的は、会の運営を社会的な信用に値するように整えるとともに、何かあったときには、組織としてメンバーを守ることができる体制を整えたいという願いがありました。メンバー一人ひとりがNPO法人の一員であることに誇りをもち、その社会的責務を自覚すると同時に、暴力のない社会づくり、子どもをはじめ誰もが安心・安全に暮らすことができる地域づくりを目指すという同じ志をもつメンバー同士が、お互いに支え合い、活動することにやりがいを感じられるような会をつくりたいと思い、NPO法人化に踏み切りました。

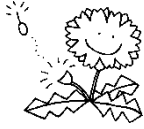
今年は2020年。会が発足して、25周年を迎えます。25周年を感謝の気持ちで振り返りながら、活動に参画し会の存続を支えてくれたメンバーとともに、これからの会のあり方を模索していくことができればと思っています。

現在、CAPをめぐる全国的な動向として、ワークショップの依頼が減少しているとはいえ、ニーズがなくなったわけではありません。胸を痛める多くの事件が報道されるたびに、私たちの活動を必要としている子ども・家族が、この日本にはまだ多くいることを痛感します。

私たちの原点は、誰もが大切にされる権利があることを伝え実現すること、誰もが自分を大切な存在であることを日常生活のなかで実感できる社会をつくること。

そして、私たち自身もその大切な存在であることを忘れずに、活動を支えてくれるメンバーとともに新しい理事会をサポートしながら、社会的要請に応えられるように活動を続けていきたいと思っています。





『NPO ピピオ子どもセンター』について

弁護士 寺西 環江

ピピオ子どもセンターは、行き場のない子どもたちが一時的に避難するための子どもシェルターです。ピピオに来る子どもには、必ず、子ども担当弁護士が付きます。その弁護士と一緒に、次の行き先を考えたり、親との調整をしたりするのです。2か月程度を目安に、次の行き先を決めていきます。

一時的な避難場所なので、原則として自由に外出はできません。入居者の安全を確保するためには、外部との連絡を自由にとってもらうのも難しいので、入居の際に携帯電話も預かります。ピピオの家は、普通の家と同じで、台所、居間、お風呂場、居室があり、子どもたちには一人ずつ自分の部屋が与えられます。

私が最初にかかわった子は、養父に虐待され、実母との衝突を繰り返していた子でした。行政の人に付き添ってもらって家に帰ろうとしたとき、目の前で母親からドアを勢いよく閉められて、泣き崩れてピピオに入ったのです。彼女は、ピピオでしばらく過ごした後、住み込み就労先に旅立ちました。そのあとも、ちょくちょく連絡を取っていたのですが、バイト先にコンパニオンまがいの仕事をさせられて、お尻を触られたと泣いて電話をかけてきたこともありました。子どもたちには、頼れる親族がおらず、普通ならだれかに相談しながら進む社会人としての生活を、一人で乗り切らなければいけないのです。まるで、海に小舟で乗り出したように、揺れていました。彼女は、そのあとも揺れながら、一步一步進み、今では結婚して、立派な母親になりました。

ずっと施設で育て、親の愛情を知らない子もいました。他県の施設にいたのですが、友達に会いに広島に来て、そのまま広島にいついたのです。飲食店で働いているところを保護され、ピピオに入りました。彼女は、10代で出産したのですが、そのときは、里帰り出産する先がないので、少し長めに入院させてもらい、退院後は、私が時々食事を作って家に届けていました。親に育てられたことのない彼女でしたが、しっかりと愛情をもって子育てをしていました。すごい子だなと思いました。もちろん、できないこともいろいろあります。料理は得意じゃなさそうでしたし、禁煙も難しそうでした。でも彼女は、妊娠中と、母乳を与えている間は、タバコを完全にやめたんです。今は、仕事をしながら、一生懸命子育てをしています。

ピピオで子ども担当をすると、子どもたちと濃密にかかわることができます。私は、子どもたちが成長し、大人になっていく過程を垣間見るのが、とても好きです。

原稿寄稿・・・寺西環江さんの横顔

弁護士業務の傍ら、『こどもの笑顔と安心、安全な地域づくり』ネットワーク（2015年2月：尾木直樹さん講演会を開催し、ネットワーク参加14団体で「子ども支援の地域づくり宣言」を行いネットワークを設立）に参加する団体「NPO 法人ピピオ子どもセンター」で子どもたちの支援活動をされています。



私たちCAP 広島も参加団体であることから、この度、会報への寄稿をお願いしましたところ、快く寄稿してくださいました。寺西様、ありがとうございます。紙面を通して改めましてお礼を申し上げます。今後も、この広島の地で連携協力しながら子ども支援の活動を共に展開していきましょう。



1月18日(土)に開催された『子どもの居場所づくり講演会・シンポジウム』に参加しました。この講演会・シンポジウムは、全国再非行防止ネットワーク協議会と特定非営利活動法人「食べて語ろう会」の主催によるものでした。

食べて語ろう会の理事長でいらっしゃる中本忠子さんは、2017年6月に中国5県CAPスペシャリスト交流会を広島が担当した際に、講師として来ていただき「食べて語ろう会」の活動の内容や、その中で出会った子どもたちとの交流やその中で感じてきたことを語ってくださいました。当会と中本さんの出会いや交流は、その日からでした。

私も1度、「食べて語ろう会」の活動拠点である中央公民館にお手伝いに伺おうとお邪魔したのですが、すでに食事は出来上がっており用意されていた食事を「あなたも食べなさい。」と勧められて美味しくいただきました。この場には、住んでいる地域に知られたくないからと地域外から食べにくる子どもや親も多くいました。中本さんの活動に賛同するスタッフの方は多く、笑顔で出迎えておられる姿に、来館者は心を許すからこそ、何度も足を運ばれるのだろうと感じました。その後、基町の家に行くとそこには長年、中本さんを「ばっちゃん」と慕う若者たちが居ました。



このたび参加した講演会・シンポジウムは、中本さんの人柄に引き寄せられ、活動を支援してこられた「有識者の方々」や「少年時代当事者であったが、現在は支援者の立場になっているの方々」が登壇されました。講演会の講師である「法務省保護局長の今福章二さん」はご自身の育ってきた環境は貧困家庭であったこと、また沖縄に赴任していた時、子どもの非行の背景には貧困があることを感じ『子どもの居場所』について深く考えていた時に「食べて語ろう会」の中本さんとの出会いがあり、そして今日ここにきているとお話がありました。局長という肩書の方のお話だからと初めは聞く耳がなかったのですが、話し始めから『ご自身の少年期のお話があり貧困家庭で育ったこと、電車からホームに飛び降りる事件を起こした時、担任の先生から「お前が悪いと言っているのではない。自分が命を大切にしなかったことが悪いと言っているんだ。」と言われたことが今でも心に残っている。**人の立ち直りは、人との出会いだ**と思う。』とお話に釘付けになりました。



局長だけではなく次から次へと登壇するの方々のお話は、『**子どもの居場所は、人だ**』ということに尽きており、とても心を動かされる内容でした。登壇者の方々のお話の中で、私が感銘を受けた言葉を列記します。【信頼関係に基づく周囲の支えが大事→「あの時があったから今の自分がある」と思えること→立ち直ろうと決意したことを持続させるのは容易なことではない→「あなたは大切な人間なんだ」ということに気付く人間関係があることが大事】。すなわち信頼できる人間関係の中にこそ「子どもの居場所」はあるのだと思いました。

CAP活動は、子どもたちに「あなたは大切な人だよ」と伝える活動でもあります。私たちの活動の中で伝える「安心・自信・自由」は、いろいろな背景の中で生きている子どもたちの心の居場所にもなりうるメッセージだと感じて、これからも活動に邁進していきたいと思えたこの度の講演会・シンポジウムでした。

2019年度 ワークショップ実績（9月～2月）

月	場所：対象（ワークショップの内容）	月	場所：対象（ワークショップの内容）
9月	★南観音小学校：2年生（子ども） ★大州小学校：3年生（子ども） ★矢野小学校：4年生（子ども）	11月	★五日市観音西小学校：4年生（子ども） ★早稲田小学校：1年生（子ども） 廿日市友和地区コミュニティー：地域（おとな）
10月	★瀬野小学校：3年生（子ども） サムエル認定こども園：保護者（おとな） サムエル認定こども園：5歳（就学前） ★長東西小学校：3, 4年生（子ども）	12月	★上安小学校
		1月	八木小学校：3年2クラス
		2月	広島修道院：年少～1年生（就学前）

★印は広島もみじライオンズクラブより助成いただいたワークショップです。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

・・・会員からコンニチワ・・・ 高山 清子



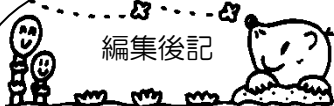
ご無沙汰しています。高山です。昨年で仕事を終わりにし、現在は自分の身体のメンテナンスをしながら、一緒に住んでいる義理の両親「91歳」とお互いに支え合いながら生活しているところです。

CAPとの出会い、忙しくても少しでも関わりを継続していきたい気持ちで、年1.2回活動してきました。今は、仕事を辞めたけども、日々の生活でいっぱい입니다。自分に無理なく継続できることを模索しているところです。

昨年は、微力ながら事務仕事も行ける日に自分のできることをやらせていただき、活動も1回ほどできました。こういうCAPの関わり方で、継続できることはどうでしょうか？自分のペースでCAPに関わるスタイルを皆さんにもお勧めします！



編集後記



✿ 今年の干支は、ネズミ。十二支の中で1番に、元日の朝、神様の元に駆け付け1年の大将に選ばれたという由来があります。ネズミが1番になるにあたっては、2番の牛の背中に乗って来たこと、また十二支の仲間入りができなかった猫には日にちを偽って教えたこと等々、ネズミの知恵の見せ所がなせる業だったとか……。物事を達成するには、知恵の使い方も大事だということでしょうか。とにかかくにも、令和2年が平和な時代でありますように。

◆昨年の流行語大賞に、列島が沸いたラグビーW杯日本大会のチームスローガン「**ONE TEAM**」(ワンチーム)が輝きました。チームに必要なのは、個人の力だけではなく、個人の力を全体の総力とするチームワークが大事だということではないでしょうか。私たちの活動も、ワンチームで推進していきたいですね。

★広島もみじライオンズの皆様からのご支援を頂き、2018年、2019年度で100WSを達成しました。広島もみじライオンズの皆様のご支援に心から感謝いたします。またWS実施にあたっては、ご協力を頂いた広島市教育委員会健康安全課の皆様にも感謝申し上げます。そして、実働いただいたメンバーの皆様、本当にありがとうございました。